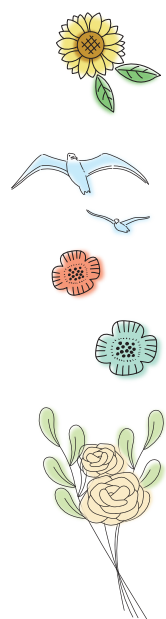


物語は、人を生かし、人を育てる



市長 包容力というか奥行きがあるというか、そういうところを感じられるまちですね。

町田 多くの観光客を迎えている場所だからでしょうか、人と人の距離感もほどよいと思っています。ぼうつとしていた時に、「あっちのお店おいしいよ」とか「雨降ってるから雨宿りしていきな」とか声をかけてもらったこともあるんです。

市長 町田さんが本を好きになったきっかけや、本を読み続ける動機は、今のお話ともつながっているんでしょうか。

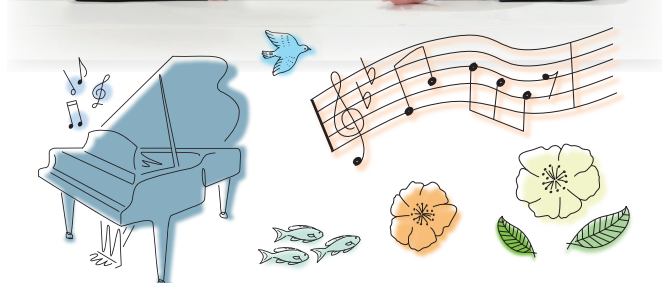
町田 小学生の時にいじめに遭っていて、教室に自分の居場所がない時は、大好きな本を持ってトイレに行って読んでいました。本の中の希望に救われていたんです。大好きな作家さんの新刊情報を見て、「来月になったらまた続きが読める」。それを待つことで、いじめに耐えてきました。

だから私は、本は人を生かすし人を育てるという理念のようなものを持っているんです。そこを守りながらこれからも書き続けていくんじゃないかなと思います。

市長 「コンビニ兄弟」は、門司港レトロともタイアップ企画が行われています。作中のコンビニをイメージしたフォトスポットや、言葉と景色が融合するアート展示など、小説

読んで、訪れて——物語の舞台・門司港へ

町田 あと大掃除の途中とか。「今じゃない！」と思うけど、出てきた本を読んで続きも探しちゃって大掃除終わらないんですよ、それ年末の私ですよ（笑）。



市長 今の時代、孤独を感じたり理不尽さを抱えている人にこそ読んでもらいたいですね。

町田 自分が苦しい人でも、好ましく思う一面を持っているかもしれない。深く共感する部分があれば、世界すら変わるかもしれない。そういう、人や世界を見る角度を変えるきっかけをくれるのが物語だと思うんです。私は物語によって救われたし、心を育てることができた。おこがましいですが、私の読者さんたちにも同じような読書体験をしてもらえたらうれしいです。

市長 私も日々忙しくする中で、そこから癒やすために本を読むっていうのが大事な要素になってますね。試験前になると小説を読みたくなるのと似てますよね。

町田さんの「作家」に対する思いなど、貴重なお話も盛りだくさん！

対談のフルバージョンはコチラから読めます



市長 最後になりますますが、2026年、どんな1年にしたいですか。

町田 飛躍の年にしたいです。作家になって10年になるので、これまでのチャレンジの成果を出したい。これまで以上に質の高い物語を書く年にしたいです。

市長 ぜひ素敵な1年にしていきたいと思います。ありがとうございます。

2026年の挑戦

の世界観を体験できる仕掛けが用意されています。

町田 門司港のまちの魅力は、書いても書いてもまだ書き足りない、まだ3割くらいしか書いていないんじゃないかと思っているの、これからも書き続けていきたいです。

市長 ぜひ、多くの方に「コンビニ兄弟」を読んでいただき、ドラマも楽しんでいただきたいと思います。そして、本やドラマをきっかけに門司港のまちを歩いて、人と人とのつながりや「おせっかいな優しさ」を感じてもらえればうれしいです。

今回の撮影地はここ！

文学館

北九州ゆかりの作家の作品・資料約12万点を収蔵する文化施設。うち約300点を常設展示しています。世界的建築家・磯崎新氏の設計により1974年に建築。シンボルであるスタンドグラス（表紙参照）は磯崎氏がデザインしたものです。



施設情報

小倉北区内4-1 ☎571・1505
 開9時30分～18時（入館は17時30分まで）
 休月曜日（祝・休日のときは開館し翌日が休館）、12月29日～1月3日



▲詳細はコチラ

＼打ち合わせの合間のひとコマ／

- Q** どんなスタイルで読書しますか？
- A 町田さん** 座って、横に飲み物を置いて。お風呂では電子書籍を読んでいます。
- A 市長** どっちかという寝転び派。ビーズクッションに埋まりながら、あおむけで読めます。
- Q** 子どもさんに読み聞かせしてますか？
- A 町田さん** しようと思ったんですけど、全然ダメでした。ママうるさいって言われて。本人たちが読んでるのを横で見えます。
- A 市長** 寝る前にやってます。今は「チョコレート戦争」を。自分が子どもの頃に読んでいた本を読んであげられるのがうれしい。